

来週の「売り物」記事はこれ



2013年2月1日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

シリアに散った戦場ジャーナリスト

山本美香の「祈り」 朝刊 3日(日)



昨年8月、紛争が続くシリア北部で、取材中に銃撃され死亡したジャーナリストの山本美香さん=写真。45歳でした。アフガニスタン、そしてイラクなど硝煙漂う戦闘地域に身を投じ、戦争の実相や、子ども、女性たちが犠牲になっている悲劇をルポルタージュしました。山本さんは生前、「世界には抑



圧者がいる。報道することで不条理な『死』を減らすことにつながる」と話していました。そして、山本さんの足跡は東日本大震災の被災地にもありました。取材を受けた人たちが一様に語るのは使命感だけでなく、思いやりあふれた山本さんの姿勢でした。山本さんの公私にわたるパートナー、家族らへの取材を通してその素顔に迫ります。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

シリーズインタビュー「時代を駆ける」

八戸市立市民病院救命救急センター所長、今明秀さん

5日～9日



地方では医師不足と救急医療の充実が課題です。青森県八戸市立市民病院の救命救急センター所長、今明秀さん(54) =写真=は全国から多くの若い医師を集め注目を浴びています。ドクターヘリを武器に、「きつい」現場を若手に魅力の「腕試しできる職場」に変えた立役者です。「短命県」の汚名返上に奮闘する今さんの歩みと取り組みを5回にわたって描きます。

「インサイド」ソチ冬季五輪まであと1年

運動面で話題を連載 5日から

ロシア南西部のリゾート地で開かれる2014年ソチ冬季五輪は、2月7日で「開幕まであと1年」の節目を迎えます。ソビエト連邦が崩壊した後のロシアで初めて開かれる五輪は、どんな大会になるのでしょうか。五輪を機に、リゾート地としての価値を高めようと開発に乗り出す思惑や、未成熟だといわれた市民社会が変化する様子などを、5日からの連載「インサイド」でレポートします。また、この期間にロシアスポーツ界の大物で現役最古参の国際オリンピック委員会(IOC)委員、ビタリー・スミルノフ氏のインタビューや現地ルポなども掲載する予定です。



ショウガで体を温める くらしナビ食べる面5日(火)

冷え込みが続きます。体を芯から温めたい方のためにショウガの上手な使い方をご紹介します。麺やドレッシングなど何にでも使える「ショウガだしつゆ」、ザラメを使った「ショウガシロップ」の作り方を、川崎市でショウガ料理専門店を営む森島土紀子さん(60)にうかがいました。



花粉シーズンを乗り切ろう くらしナビ生活面6日(水)



そろそろ花粉症シーズン。昨夏は日照時間が長く気温が高かったため、杉やヒノキの花芽がよく育ったそうです。各種の予想では2月中旬には例年より多い花粉が飛び始めるとか。杉の木が少ない地域への「避粉の旅」、花粉を防ぐコートやメガネなど、つらい時期を乗り切る最新花粉対策を取材しました。

エコ列車で巡る信州の旅 くらしナビ生活面7日(木)

首都圏から近く、週末などを利用してリゾート気分を味わえる信州に向かいました。北アルプスの絶景を望みながら走るローカル列車は、最新のハイブリッド列車。車内では信州リンゴ入りアイスクリームや安曇野の民話も楽しむことができます。長野—松本—穂高—信濃大町を巡りながら、美しい山並みと甘酸っぱいリンゴと信濃の人情を味わいました。



それってどうよ!?

孫への教育資金1500万円まで非課税

夕刊特集ワイド 4日(月)

祖父母が孫に教育資金を贈与する場合、1500万円までは非課税——4月から始まるこんな制度が話題を呼んでいる。財産は本来、相続を中心に世代間で引き継がれるものだが、高齢化の進展でなかなか若い世代に財産が移らないのが現状。そこを何とか動かそうというのが政府の狙いだ。「若い世代の消費の底上げになり、経済が活発化する」「少子化対策として試す価値がある」との評価がある一方、「制度を利用できる人は限られ、教育格差の固定化につながりかねない」という指摘が出ている。

